

第46回

喜多流

青年能

賀 茂 佐藤 陽
 夕 顔 高林 昌司
 雷 電 友枝 雄太郎

2019年9月21日(土)
 ◆12:00開演(11:15開場)◆

十四世喜多六平太記念能楽堂

主催: 公益財団法人 十四世六平太記念財団
 協力: 喜多流職分会
 後援: 品川区・品川区教育委員会

チケットご購入のご案内

一般4,000円(前売3,500円)/学生2,500円(前売2,000円)

全席自由席

発売日: 2019年6月23日(日)

インターネット 24時間対応/要事前登録(無料)

喜多能楽堂ホームページ
<http://kita-noh.com/>
 【お受取り・お支払い】

①セブンイレブン
 ご予約の際画面に表示された番号をレジにご提示の上チケットをお受取りください。お支払いは現金またはクレジットカードをご利用いただけます。ご予約の際クレジットカードで先にお支払いを済ませていただくことも可能です。

②窓口(喜多能楽堂事務局)
 クレジットカードでお支払いの上(ホームページでのWeb決済)、ご予約の際画面に表示された番号を窓口にご提示の上チケットをお受取りください。現金でのお支払いはできません。

電話予約 午前10時~午後6時/休館日あり

喜多能楽堂事務局 TEL 03-3491-8813
 【お受取り・お支払い】

①セブンイレブン
 ご予約の際お伝えする番号をレジにご提示の上チケットをお受取りください。お支払いは現金またはクレジットカードをご利用いただけます。

②郵送
 チケット代金と手数料を指定の銀行口座にお振込みください。入金確認後、簡易書留にてチケットをお届けいたします。

③窓口(喜多能楽堂事務局)
 ご予約の際お伝えした番号を窓口にご提示の上チケットをお受取りください。お支払いは現金のみとなります。

窓 □ 午前10時~午後6時/休館日あり

喜多能楽堂事務局 TEL 03-3491-8813
 【お受取り・お支払い】 お支払いは現金のみとなります。

ご注意

- ・開演中の途中入場はお断りいたします。
- ・未就学児童のご入場はご遠慮ください。
- ・やむを得ない事情により出演者が変更になる場合がございます。
- ・許可なき写真・ビデオ撮影、及び録音はお断りいたします。
- ・客席での携帯電話やスマートフォンなど音や光の出る電子機器のご利用はお断りいたします。
- ・ロビー見所でのご飲食はできません。2階ラウンジをご利用ください。
- ・喜多能楽堂は全館禁煙です。屋外喫煙所をご利用ください。
- ・お席を離れる場合は貴重品、お手回り品にご注意ください。盗難・紛失についての責任は負いかねます。コインロッカーもご利用ください。
- ・係員の指示に従っていただけない際には退場していただく場合がございます。

・各同人でもチケット受付しております。

十四世喜多六平太記念能楽堂

〒141-0021 東京都品川区上大崎4-6-9
 TEL 03-3491-8813



JR線・東急目黒線・都営三田線・東京メトロ南北線ともに目黒駅より徒歩7分。
 目黒駅西口よりドレメ通りを直進。杉野学園体育館手前を左に入る。

お客様専用駐車場はございません。お車での来館はご遠慮願います。

次回喜多流青年能予告

2020年5月23日(土) 11:15開場/12:00開演

能「玉葛」金子 龍晟
 能「是界」狩野 祐一

ほか狂言・仕舞

番組

仕舞

岩船 金子龍晟

半部 谷友矩

友枝雄太郎
塩津圭介
佐藤寛泰
高林昌司

能

後シテ連(天女) 大島伊織

前シテ連(里女) 狩野祐一

後シテ(別雷神)

佐藤 陽

ワキ連(從者) 矢野昌平

ワキ(神職) 村瀬 慧

ワキ連(從者) 村瀬 提

アイ(賀茂明神の末社) 山本則重

後見 狩野了一

友枝真也

地謡

金子龍晟 栗谷浩之
谷友矩 内田成信
佐藤寛泰 栗谷明生
友枝雄太郎 大島輝久

賀茂

狂言

清水

シテ(太郎冠者) 山本凜太郎

アド(主) 山本泰太郎

休憩二十分

能

後シテ(夕顔の上の霊)

高林昌司

夕顔

ワキ(旅僧) 村瀬 提

アイ(五條辺の考) 山本則孝

後見 高林呻二

大島輝久

大鼓 大倉慶乃助
小鼓 飯富孔明

笛 小野寺竜一

金子龍晟 友枝真也
狩野祐一 友枝雄人
塩津圭介 長島 茂
谷友矩 金子敬一郎

休憩十五分

能

後シテ(雷神)

友枝雄太郎

雷電

ワキ連(從僧) 矢野昌平

ワキ(法性坊) 福王和幸

ワキ連(從僧) 村瀬 慧

アイ(法性坊の能力) 若松 隆

大鼓 佃 良太郎
小鼓 森 貴史

太鼓 桜井 均
笛 栗林祐輔

後見 友枝雄人
高林昌司

友枝大風 佐々木多門
佐藤寛泰 高林呻二
塩津圭介 狩野了一
佐藤 陽 栗谷充雄

附祝言

五時十五分頃終了予定

賀茂 (かも)

播州(現・兵庫県)の室明神に仕える神職が、京都の賀茂の社へと参詣する。そこへ里の女たちが、境内に流れる川の水を汲みにやってくる。神職は彼女たちに、この川辺に築かれている白羽の矢が立てられたものは何かと尋ねる。すると女の一人が、この賀茂の社の成立に繋がる矢のいわれを語って聞かせる。そして女たちは川尽くしの歌を歌いながら、清く澄む川の水を神職の前で汲んで見せる。あまりにことに詳しいため、神職が女に名を尋ねる。女は、実は自分がこの神体であるとのめかし姿を消す。やがて神職の前に賀茂御祖神(かもみおやのかみ・下鴨神社の祭神)が現れ、天女の舞を奏でる。続いて賀茂別雷神(かもわけいかづちのおおかみ・上賀茂神社の祭神)も出現し、雷鳴を轟かせながら五穀豊穡・天下泰平を寿ぎ、天高く駆け上がった行った。

夕顔 (ゆうがお)

豊後(現・大分県)から旅の僧が上洛し、五条のあたりへとやってくる。すると荒れ放題の屋敷の中から、歌を口ずさむ女の声が聞こえてくる。僧が不思議に思い声をかけると、女はこが『源氏物語』に登場する「某の院」であると教える。女はこの某の院と夕顔について、しみじみと僧に物語をする。そのうちに女は、泡沫のごとくに儚く散った夕顔の花は再び咲くのでしょうか、と言い残り消えてしまう。

所の人から詳しく夕顔の物語を聞いた僧は、彼女の亡き跡を申う。そこへ夕顔の霊が再び現れる。儚く命を落とし、なおも闇をさまよいつづける我が身を助けてほしいと彼女は述べる。荒れ果てた院の庭で、彼女は静かに舞を舞う。やがて僧の申いによって闇が晴れ、夕顔の霊は成仏の身となったことを喜びつつ、雲のまぎれに消えて行った。

雷電 (らいでん)

太宰府に左遷され命を落とした菅原道真の亡霊が、かつての師匠である比叡山延暦寺の僧正を尋ねる。僧正は驚きつつも彼を中へと招き入れ、二人は師弟であった昔を懐かしんで語り合う。道真は僧正に、政敵への復讐をするから、朝廷から出仕の要請が来ても黙殺してほしいと頼む。しかし僧正は、三度要請が来れば出仕しないわけにはいかないとして述べる。すると道真はにわかには怒り、供え物の柘榴を噛み砕いて扉に吹きかける。柘榴はたちまち火炎となって燃え上がるが、僧正は冷静に印を結び呪文を唱えて消火する。そこから立上った煙に紛れて、道真の亡霊は行方知らずとなる。

朝廷からの要請に応じた僧正が祈禱していると、道真が雷神となつて現れる。両者は宮中を互いに巡り合いながら激しく衝突する。しかし、僧正の法力によつて遂に道真は祈り伏せられる。時の天皇は道真に天神の称号を授け、これに道真は喜び怒りを鎮め、黒雲に乗り空の彼方へ去つて行つた。